

教育
広報

あきる野の教育

2021(令和3)年7月1日

編集・発行 あきる野市教育委員会

〒197-0814

あきる野市二宮350

☎042(558)1111(代)

文化芸能が育む



あきる野っ子の心と絆



ICT(情報通信)と

郷土芸能

あきる野市教育委員会
教育長 私市 豊



あきる野市の公立小・中学校では、地域の協力の下に、郷土の文化や郷土芸能を学んでいます。

去る5月19日(水)に、東秋留小学校、多西小学校、一の谷小学校、五日市中学校で「指導いただいた4団体の代表者と座談会を行いました。指導者の皆さんにお話を伺い、地域の方々の子どもたちへの熱い思いが伝わり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

さて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により昨年は、3月後半から2か月以上にわたり、全校が臨時休校になりました。国は、義務教育の学びを止めないために、5年間で進める計画であったGIGAスクール構想の端緒となる、児童・生徒一人一台のタブレット端末の整備を一気に進め、今年4月からの活用が可能になりました。授業の活用には、まだ十分ではありませんが、研修やソフトの整備等により徐々に進められるものと思います。

2030年を目標に定められている学習指導要領では、「情報活用能力」を学習の基盤とする資質・能力と位置付けています。一方、総則には、

特色ある教育活動によって「児童・生徒に生きる力を育むこと」「豊かな心や創造性の涵養を目指すこと」が明記されており、心を育む教育も求められています。この「心を育む教育」を進めるに当たり、各地域に受け継がれている郷土芸能が、豊かな心を育てる教育につながるものと考え、地域の方々に「指導いただいたところ」であります。

今回、座談会のテーマに、「子どもたちにとって、スマートフォンやパソコンが生活必需品になってきており、学校のICT環境も整備されてきたが、このような世の中の動きの中で、伝統文化・郷土芸能が子どもたちの成長に果たす役割や期待できることは何か」を取り上げました。指導者の皆さんからは、「郷土芸能は、郷土を愛する心を育てることになります。郷土芸能を多くの子供たちに知ってもらうために、動画等を活用して情報発信することが大事だと考えます。」「あきる野の伝統文化・郷土芸能を引き継ぎ、後世に伝えていくことが、デジタル社会をより住みやすい社会にすることにつながるのではないのでしょうか。」「郷土芸

能は、高齢者が子どもに教えていますが、会員間での連絡は子どもたちから様々な機能を教えてもらい、スマートフォンを使うようになりました。このようにICT化が年代間の交流を深めることになりました。」などのご意見をいただきました。

将棋の世界にAI(人工知能)が使われ始めたころ、人と人の対局にはどうかと疑問が投げかけられました。今では、多くの棋士がAIを活用して研究をしており、棋士の棋力は深化し、結果として将棋界全体が活性化しているといわれています。

学校教育においても、ICTの活用が急速に進む中であるからこそ、地域の指導者の下に、子どもたちが地域の文化、郷土の芸能を学び、体験することによって、新たな教育効果が醸成されることを期待するものであります。

